

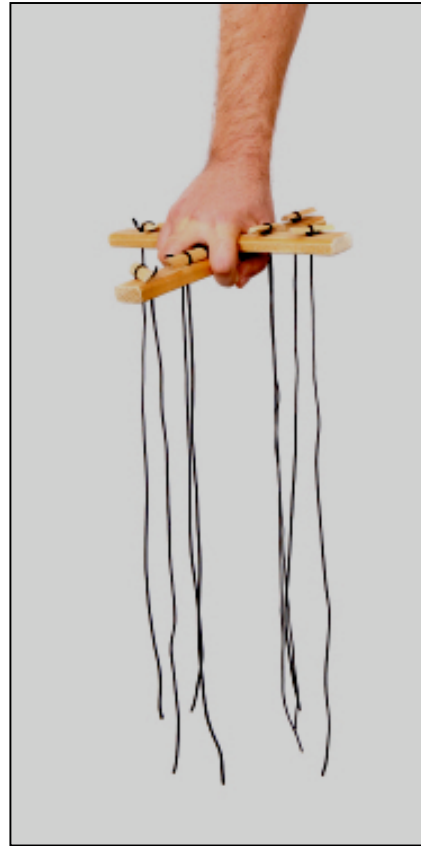
# イエスは 操り人形 ではありません

## ヨハネ6:1-15

6:1 その後、イエスはガリラヤの湖、すなわち、テベリヤの湖の向こう岸へ行かれた。  
 6:2 大ぜいの人の群れがイエスにつき従っていた。それはイエスが病人たちになさっていたしるしを見たからである。  
 6:3 イエスは山に登り、弟子たちとともにそこにすわられた。  
 6:4 さて、ユダヤ人の祭りである逾越が間近になっていた。  
 6:5 イエスは目を上げて、大ぜいの人々の群れがご自分のほうに来るのを見て、ピリポに言われた。「どこからパンを買って来て、この人々に食べさせようか。」  
 6:6 もっとも、イエスは、ピリポをためてこう言われたのであった。イエスは、ご自分では、しようとしていることを知っておられたからである。  
 6:7 ピリポはイエスに答えた。「めいめいが少しずつ取るにしても、二百デナリのパンでは足りません。」  
 6:8 弟子のひとりシモン・ペテロの兄弟アンデレがイエスに言った。  
 6:9 「ここに少年が大麥のパンを五つと小さい魚を二匹持っています。しかし、こんなに大ぜいの人々では、それが何になりましょう。」  
 6:10 イエスは言われた。「人々をすわらせなさい。」その場所には草が多かった。そこで男たちはすわった。その数はおよそ五千人であった。  
 6:11 そこで、イエスはパンを取り、感謝をささげてから、すわっている人々に分けてやられた。また、小さい魚も同じようにして、彼らにほしだけ分けられた。  
 6:12 そして、彼らが十分食べたとき、弟子たちに言われた。「余ったパン切れを、一つもむだに捨てないように集めなさい。」  
 6:13 彼らは集めてみた。すると、大麥のパン五つから出て来たパン切れを、人々が食べたうえ、なお余ったもので十二のかごがいっぱいになった。  
 6:14 人々は、イエスのなさったしるしを見て、「まことに、この方こそ、世に来られるはずの預言者だ」と言った。

6:15 そこで、イエスは、人々が自分を王とするために、むりやりに連れて行こうとしているのを知って、ただひとり、また山に退かれた。

パワースポットとは、達成できないようなゴールを達成させたりする、というような特別な力を訪れる人に与えると言われている場所です。日本の最近の流行(はやり)について書いてあるAsahi.com [朝日新聞のウェブサイトから]の記事



を妻がくれました。どうやら、テレビや雑誌で神社やほかの場所が取り上げられると、人々は群れをなしてその「パワースポット」を訪れるようです。

神戸にある「サタルネスの椅子」という椅子に座るために2,3時間待つのは普通だそうです。なぜその椅子に座るのにそんなに待つのでしょうか?それが「パワースポット」だからです。その木の椅子は、とても大変な人生を送っていた女性の話が取り上げたテレビ番組の後、とても有名になりました。女性がその椅子に座

ったあと、仕事が見つかり、ボーイフレンドまで見つかったというのです。今では

週末には千人以上の人々が訪れ、週日にも400人の訪問があるそうです。近くのホテルでは、その椅子のある家に入る入場券付の宿泊パッケージを用意しているところもあります。

もし、その椅子にすわっているのが、“あなた”だとし

たら、あなたは何を考えますか?

- 満たされた結婚
- よくいうことを聞く良い子供
- 経済的に不自由のない生活
- 生活を楽しむことができる健康に恵まれること

これらの思い、考えはなにか間違っているのでしょうか?これらは、もちろん良いことです。もし、人生にとって、これらのことだけが、必要で、十分なことならば、これらの思いは、すべて、論理にかなったことのようにおもわれますでしよう。

私たちはみな、何らかの形でパワーを求めています。順風満帆の人生にできれば、と願っています。力が明らかなきとき、人はそれにひきつけられます。イエス様のときもそうでした。イエス様は力を表されました。病人を癒し、盲人の目を開けました。群衆がイエス様のもとに群がりました。イエス様のなされた奇跡はイエス様が神の子であることを証しするものでした。イエス様の力は神様を指し示すものでした。しかし多くの人はイエス様を「パワースポット」のように扱いました。今でもそうです。イエス様の力は魅力的です。しかし、イエス様は、私たち自信の願いや思いをコントロールできるような操り人形ではありません。イエス様は私たちを気持ちよくさせたりするだけの役割ではないので。

私たちの創造主なので、私たちの必要をご存知です。イエス様のご計画は、私たちが願ったり想像したりできることをはるかに超えて偉大です。イエス様は、ご自身に従う者の人生に対して、ただ単に「すべて私たちの思いどおりに行く」という保証以上の、深くすばらしいご計画と目的をお持ちです。

### 人々は、癒す力として イエス様を求めた (1,2節)

このときのイエス様はすでにとても有名になっていました。その前に王室の役人の息子を癒し（ヨハネ 4:43-54）、病気のため38年も歩けなかった人を癒されました（ヨハネ5:8-9）。イエス様が病人になされた奇跡を見たので、たくさんの人がイエス様に従っていました。これらの奇跡はイエス様にとって、ご自分が誰であるか、なぜ来られたかを教える機会でした。

イエス様の癒しの奇跡は先に預言されたことを成就し、救い主としての使命がどのようなものかを示しました。イエス様は人々の必要に焦点を置きました。なんでもすることができる力を持っておられたイエス様が、なさらなかったことを考えると興味深いです。なぜ光線の光(ウルトラマンの光線)によって、けんか好きで高慢なパリサイ人の何人かを、消えさせてしまわなかったのでしょうか？群衆は喜んだことでしょう。または、たくさんの人が聞きに来てたのだから、20メートルくらいの高さに空中浮揚して話をすれば、みんな問題なく聞くことが出来たでしょう。

イエス様は芸人(ショーマン)ではなく、救済の使命を持った神様の僕でした。

イエス様はいつも人を助けるためにご自分の力を使われました。天の父の御心でないことは何一つしませんでした。イエス様の使命は罪が壊したものを回復することでした。病人の癒しは、将来あがなわれたすべての人が神様と共に過ごす永遠の状態の前味です。信仰を持って、心の奥深くの必要を満たしてくださる救い主としてご自身を信頼するように、イエス様は人々を招かれていました。彼が、力を示すのは、私たちがすでにほしいものを神から与えられることによって、神が役に立つからではありません。

そうではなく、私たちが希望していたどんなものよりも、イエス様ご自身が、どんなにかすばらしいかを私たちがわかるためなのです。しかし、人々は的をはずしていました。[勘違いしていました。]

### 人々は、必要を満たす 力としてイエス様を 求めた(3-13節)

イエス様に従った群衆はおよそ5千人の男の人でした。その頃は男性しか数えなかつた。

ったので、女性や子供も入るとその4倍までにもなれます。イエス様は五つの小さなパンと二つの小さな魚という

一人の子供のお弁当で推測1万5千から2万人の人を養いました。みんなに、十分あるようにイエス様はパンと魚を増やしました。群集がおなかいっぱい食べて、残りが12かごあり



ました。(余談ですが) 中東には、食べて満足したことを示すためにげっぷをする習慣があります。2万の人が満足した音はきっとすごかったでしょう！でも、彼らはまたお腹が空くでしょう。

6章の後のほうで、イエス様は人々がイエス様を求める動機をはっきり述べます。新しい土地についてきた彼らに、イエス様は、「まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたがわたしを捜しているのは、しるしを見たからではなく、パンを食べて満腹したからです」(26節)と言われます。人々が

イエス様について行った動機は、前は不思議なしるしを見たからでした。お腹が満たされることが分かった

とき、それが新しい動機となりました。イエス様は人間の必要を用いてご自身がいのちの源であることを指し示されました。

イエス様は、彼らの

肉体的必要を満たすことで、霊的必要も満たすことが出来ることを示されました。しかし群衆はただ食べ物を求めました。イエス様は天の話をされましたが、群衆は食べ物の話しをしていました。食べ物が只で、しかも食べただけもらえる！そんな驚きの力を目撃して、イエス様を自分たちの王にするという、もっと大きなことを達成する絶好のチャンスのように見えました。イエス様の本当の使命が何かということは彼らの頭にはありませんでした。ただ自分たちの好きなように動かせる「イエス」が欲しかったのです…まるで

操り人形のように。

### 人々は支配する力としてイエス様を求めた (14,15節)

群集は力づくでイエス様を王にしようと思いました。その頃ユダヤ人は外国勢力、ローマ人に支配されていました。ローマ支配から解放されたい、と政治的救済者を求めていました。イエス様を王様にすれば、願うことをすべて達成する力がある。彼らの熱心はイエス様が本当にどなたであるか、の故ではありませんでした。人々がイエス様を求めるのは自分の人生を自分で定義した成功と幸せに従って歩むことが出来るようにしてくれるから。イエス様が、彼らにとって「パワースポット」だったのです。今の「サタルネスの椅子」に対するアプローチとさほど変わらないものだったのです。イエス様はそのようなもの一部とはなりません。した。「人々が自分を王とするために、むりやりに連れて行こうとしているのを知って、ただ一人、また山に退かれた。」

イエス様が人々の必要を満たされたということは、もし彼らのご自身のもとに来るなら、彼らを養う、ということを示していました。しかし人々はイエス様によ

り頼むのではなく、イエス様をコントロールすることを望んでいました。

私たちは、人生がどうなのか、どうしたらスムーズによい生

活出来るのか分かった、と思うときがあり、そして次の瞬間、すべてが崩れ落ちてしまうように見えることがあります。神様は私たちが人生で求める多くの祝福よりももっとよいものを持っておられます。信頼と信仰によって神様と共に歩む人生に私たちを招いてください。あなたが人生で求めておられるものは何ですか？人生を楽しむことを求めるだけよりもっと過激な解決がそれぞれの心のうちに必要です。イエス様を人生に成功と幸福をもたらす手段とするとき、私たちはイエス様を操り人形にしようとしています。神様により頼むのではなく、神様をコントロールしようとしているのです。

でも、人生は私たちが中心ではなく、神様が中心です。

### 結論:

三歳の男の子と別の椅子の



お話をしたいと思います。この椅子は、実はトイレです。この男の子はもう自立していることを示したいと願う歳になっていました。自分が誰の助けも得ないでトイレに行けることを見せたいのでした。彼はその頃おじいさんの大きな古いタイプの家に住んでいました。二階にひとつだけトイレがありました。階段を上ってトイレに入りドアを閉め鍵をかけました。すべて計画通りにいって、とても自立した子だ、と（自分で）感じていました。問題は彼が出ようとしたとき、ドアの鍵が開けられませんでした。パニックになって、「もしかしてこのトイレで一生過ごさなければならぬかも」と考えました。ありがたいことにお父さんが家にいて男の子の助けを求める悲痛な叫びを聞き

ました。お父さんははしごを持ってきて二階の窓からトイレに入り、大人の力を持って、鍵を回しドアを開けました。ありがとうをいって、男の子はすぐに、そとに遊びに走り出しました。

この物語の男の子は今六十歳になろうとしています。長年彼がどのようにクリスチャン生活をしてき

たかのたとえとして、そのときの経験を振り返ります。神の御言葉と人生の経験による知恵をもってこう書いています。「クリスチャン生活というのはこういうものだと思っていました。自分が出来ないとき、祈る。そうすると神様が出てくる。神様は私の叫びを聞いて私が欲する祝福のドアをかぎ開けてくださる。

時にはそうしてくださる。でも、もはや三歳ではなく六十になろうとしている今、クリスチャン生活というのはそうではないことに気づき始めました。そして思います、私たちのうちで誰か、本当に神様に満足している者はいるのでしょうか？私たちが一番開いて欲しいと願うドアを開けてくださらないときも神様が好きでしょうか？

- 結婚関係が癒されないとき
- 反抗的な子供がまだ反抗するとき
- 経済的困難が私たちの気持ちよい、慣れ親しんだ生活様式を脅かすとき
- 祈りにかかわらず健康がますます悪くなる時

神様は、小さな窓から私の暗い部屋に入ってきてくださいました。でも私が回せなかった鍵を開けるためではありません。代わりにトイレの床に座り、「おいで、私と一緒に座りなさい」と言われます。神様は私と一緒にいるために部屋に上って来るほうが、私を外に遊びに出すより大切だと思われているようです。私は、いつもそういう見方をするわけではありません。「ここから出して」と叫びます。「もし私を愛してるなら、鍵を開けて！」

神様は私たちのことをとても愛しておられます。わたしたちが神様と共に歩む人生を経験するのに必要なことをすべてなしてくださいました。イエス様は信じる者が皆、永遠の命を得られるようにご自分の命を与え

てくださいました。十字架はイエス様によって可能となった神様との愛の友情（関係）と交わりへのすばらしい招きの証拠です。神様は信頼とより頼む関係に招いてくださいます。私たちが人生で求める多くの祝福よりももっとよいものを持っておられます。神様は私たちをご自身に招いてくださいます、操り人形のような使われる力としてではなく。ご自身に招いてくださり、私たちが神様を楽しみ、また私たちの愛なる王として喜ぶことが出来るように私たちの人生に入って



くださいます。神様の祝福だけではなく、神様ご自身のうちに本当のいのちを見いだし、経験するように私たちの心は造られたのです。

あなたが共にいてくださること、それが私のすべて、私の心があなたのうちに安らぎを得ますように。

お祈りしましょう。

主よ、

どうかわたしたちを憐れんでください。私たちはとても簡単にあなたの祝福を喜びます。しかし、あなたを簡単に忘れてしまいます。だから、物事が自分の思うとおりに行かないときに簡単にがっかりします。そして簡単にあなたのせいになります。もし、他の人を、私たちが、よく神様に対して扱うようにするならば、その人はほんとうに、利用された、虐待されたとおもうでしょう。私たちは、神様よりも人間のおもいを気にすることを赦してください。私たちが時々あなたを利用するならば、もしほかの人にしたなら、その人は利用された、と思うでしょう。自分の欲しいものを得るためにコントロールできる操り人形のようにあなたを扱ったことをお赦してください。あなたよりもあなたの祝福に心を定めてしまうことをお赦してください。十字架で、し示してくださった憐れみと愛を感謝します。イエス様の救いの御業に対する信仰と信頼を通して、あなたを主として、また王として知ることが出来ます。より頼む、信仰へ私たちの心を導いて

ください。あなたをもっと知り、この難しい世の中であなたをよく表すことが出来るようにしてください。何をなさってくださいるかと言うことだけではなく、あなたがどなたであるかにおいて、あなたを喜び、楽しむことが出来ますように。これらのことを、イエス様の御名によって祈ります。

アーメン。